

G★U★M★B★O

第18期に向けて

2018年5月16日

初夏漂う季節となりましたが、ご家族の皆様は如何お過ごしでしょうか。早いもので、私が社長に就任して丸一年を迎えようとしております。おかげさまで17期を無事に好成績で終えようとしております。まず、この一年を乗り切る事が出来、皆様方には大変感謝しております。18期につきましても更なる好成績にて成果を出せるよう邁進する所存でございます。

この1年を振り返りますと、下期の大型テーマ(スズキグジャラード)による受注調整により、中盤に谷間が出来る事態となりました。その後は、予定通りに大型テーマを受注して、無事に4、5月と出荷に至り、下期に盛り返すことが出来ました。その中で、現在は18期の大型テーマ(MARUTI SUZUKI)の仕込みがスタートしております。来年度に置きましては、17期を越える売上げが見込める状況です。なお、組立、電気メンバーにおきましては、現地スーパーバイズの派遣が長期に亘り予定されております。ご家族の皆様にはご苦勞をお掛けすることとなりますが、何卒ご理解頂きますようお願い申し上げます。

今後の事業につきまして、当面は自動車用エンジン(内燃機)関係を展開します。しかし、得意先でもあるスズキの業績を上げる原動力となったインドでは、政府が電気自動車(EV)の普及を急ピッチで進める方針を示しています。EV技術に過去最高の研究開発費を投じるとの報道もあります。

但し、ここへ来て2030年までにEVへ完全移行に陰りが出ているとはいえ、その方向に進むのはおそらく間違いはありません。クリエイティブ・システムとしても、電動化に向けた次世代車の部品に対応する設備への取り組みが急務となっています。その方向として、単なる設備開発では無く、今まで培った技術を発展させる、ロボットや検査装置等への取り組みがスタートではないかと思えます。

不安は拭えませんが、今後の動向に柔軟に対応します。そして、次の2点に注力します。1つは、今まで培った販路と技術力を基に、更なる新規事業開拓・新技術習得を心がけること。もう1つは、お客様が満足し、喜んで頂ける付加価値の高い商品創りとサービスを提供すること。その上で、世界のモノづくりに貢献出来ることを目指します。

今まで以上に、従業員の皆様、ご家族の皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。

代表取締役社長 谷野秀樹



新入社員挨拶(記者:鈴木久)

4月21日に入社した鈴木久永です。入社して1ヶ月経ちますが、不慣れな事が多く、皆さんにご迷惑ばかり掛けています。一日でも早く仕事を覚え、皆さんに追いつけ追い越せを目標に、一生懸命頑張っていきたいと思えます。日々忙しいところ、申し訳ございませんが、引き続きご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

ヨッシーの心理学ってなんじゃろ〜?(記者:吉野)

今回は、『怒られて伸びる人と伸びない人』について発表します。

若い時には怒られるのは当たり前で、経験値の多い先輩や上司にかなうはずがありません。だから、怒られるのは仕方がないのです。しかし、大事なものは「怒られた後」だと思います。

「伸びない人」は、怒られた後に腹を立てたり、落ち込んだり、ただただ感情的になってしまいます。でも、怒った先輩や上司は感情的になることを求めてないと思います。逆に怒られた意味を分かっている人は、いつまで経っても将来伸びないと思います。求めているの「成果」だと思います。

成果が出ないから怒られるとしたら、感情的にならずに成果を出すことを目指せばよいと思います。「給料＝投資」だと思うから、それに見合う成果を出さなければいけません。「給料分働けよ」というのは、給料の範囲内で働くという意味ではなく、与えられた投資に対してどれだけ成果を出せるか、そしてその投資以上に成果を出していると判断された時に、はじめて給料が上がるのだと思います。

怒られた後に「伸びる人」は、その意味を分かっているような気がします。だからこそ、成果が出せないでいる時やその方法が分からない時には、怒ってくれた先輩や上司に質問しに行くなどして、解決していかないといけません。コミュニケーションが苦手な人でも成果を得るために、そういった努力をして、スキルアップ・ステップアップをしてほしいです。

次回も引き続き人間の心理について考えて生きていきます。

気になったこと(記者:杉浦)

日に日に、暑さが増す今日この頃、皆様、如何お過ごしでしょうか？ エアコン、パソコン、ウォシュレットが新三種の電器だと思っておる編集長です。

最近、AI(人工知能)、よく聞く機会が増えています。チェス・囲碁・将棋においてAIがプロに勝つ、そんな時代になってきました。その手法は「Deep learning(深層学習)」といい、注目を集めています。Deep learningはAI技術の一つです。前段階として、機械学習があり、大量のデータから規則性、関連性を見つけ出し、判断や予測を行う手法です。Deep learningでは、人間の神経回路をモデルにした多層構造アルゴリズム「ディープニューラルネットワーク」を用い、得微量の設定や組み合わせをAIが自ら考えて決定します。機械学習と違い、自動で考え決定し、学習します。

ただし、与えるデータにより方向性が変わります。与えるデータをある方向に偏らせたものは、特化型AIとなり、囲碁などでプロに勝つのはこのタイプになります。また、データを広く与えることで汎用型AIとなる生命に近いロボット人工知能がそれに当たります。しかし、人間と同等かそれ以上に万能なAIは現段階では実現できておりません。実用化されているAIは特化型となります。AIの学習・経験値の蓄積は日々進んでおります。汎用型の実用化も・・・さらなるハードウェアの技術革新が必要です。

一部では人間を超えたAIが、これからいろいろな分野へと進出してきます。自律走行車などもAIを用い、より高度な判断や、他の車とのリンク、「所有」から「共有」などに発展します。激動の時代を進むこととなります。ただ・・・AIも道具であり、善悪は人間が決めます。AIの発展と普及に伴い、サイバー犯罪はAIが主体となり、それをAIが防ぐ、そんな未来も間近に感じます。

それでは皆様、体調にお気を付けて、冷房の温度設定は下げ過ぎずに・・・ごきげんよ〜〜^^/シ